

# IBAKYOU



# NEWS 100

2018.3.1  
号特集

茨協ニュース

一般社団法人 茨城県ビルメンテナンス協会

技術とともに技能の向上を促進し、  
サービスの品質を確実なものに  
していこう

## 迎 2018年 賀詞交歓会 春

一般社団法人 茨城県ビルメンテナンス協会



- |    |                          |    |                     |
|----|--------------------------|----|---------------------|
| 2  | 平成30年 新春賀詞交歓会開催          | 17 | 平成30年度 主要事業・行事の開催予定 |
| 6  | 茨協ニュース (第100号) を迎えるにあたって | 18 | 理事会だより              |
| 8  | 協会のあゆみ                   | 18 | 各委員会だより             |
| 10 | 創刊100号に寄せて               | 19 | 会員告知板               |
| 11 | 東日本大震災から7年が経過して          | 19 | 編集後記                |
| 17 | 平成29年 労働災害事例             |    |                     |

# 交歓会開催

平成30年

# 新春賀詞

総務委員会

去る1月18日(木)、茨城県ビルメンテナンス協会の賀詞交歓会が、水戸プラザホテルにて盛大に開催されました。

ご来賓に、茨城県知事 大井川 和彦様をはじめ、自由民主党茨城県支部連合会幹事長 県議会議員 田山 東湖様、茨城県保健福祉部次長 寺門 利幸様、同生活衛生課長 前田 亨様、茨城労働局労働基準部長 田澤 修二様、業界からは(公社)東京ビルメンテナンス協会 副会長 梶山 龍誠様、(一社)茨城県警備業協会 会長 島村 宏様、(一社)茨城県貯水槽維持管理協会 副会長 関根 忠夫様、茨城県管工事業協同組合連合会 会長 石田 賢司様、(一社)茨城県ペストコントロール協会 会長 代理 中村 浩様、(公社)茨城県シルバー人材センター連合会 常務理事兼事務局長 稲葉 精一様、(公財)茨城県生活衛生営業指導センター 専務理事 川島 邦子様など、多数のご臨席を賜りました。

主催者を代表して当協会の大山進会長から、「**技術とともに技能の向上を促進し、サービスの品質を確実なものにしていこう**」との力強い新年の挨拶をいただきました。

新しい年を迎えるにふさわしい和やかな雰囲気の中、ご来賓並びに会員の皆様と新年のご挨拶や意見交換等を行いながら、大変活発な交流が行われ、懇親を深めることができました。

お忙しい時期にも関わらず、沢山の方にご出席賜りまして心より感謝申し上げます。

最後になりますが、各社の益々の発展をご祈念いたしまして、新春賀詞交歓会の報告とさせていただきます。



自由民主党茨城県支部  
連合会幹事長 県議会議員  
田山 東湖 様



茨城労働局  
労働基準部長  
田澤 修二 様



(一社) 茨城県ビルメンテナンス協会  
会長 **大山 進**

改めまして、明けましておめでとうございます。  
会員の皆様方におかれましては、決意を新たに、  
新年を迎えられたことと存じます。

本日は、ご多忙中にもかかわらず、茨城県知事  
大井川 和彦 様、自民党県連 幹事長 田山 東湖 様  
をはじめ、多くのご来賓のご臨席を賜り、恒例の  
賀詞交歓会が開催できますことを、心から感謝申  
し上げる次第でございます。ありがとうございました。

なお、大井川知事におかれましては、この後、  
祝宴に入りましたから、ご来場の予定となっております。

さて、昨年を振り返りますと、多事多端な1年  
ではありましたが、その中で、やはり大きな出来  
事は、8月の知事選挙によって、大井川知事が誕  
生したことかと思えます。

今後の「新しい茨城づくり」に向けた大井川知事  
の手腕に、大きな期待を寄せているところでござ  
います。

また国政では、10月の衆議院議員選挙で自民党  
が圧勝し、安定した政権運営が継続されることと  
なり、安堵しているところでございます。

ここで、私どものビルメンテナンス業に目を向  
けますと、慢性的な人手不足や、限度を超えたコ  
ストダウンなど、依然として厳しいものがあり、  
なかなか景気の回復を実感できないのが、正直な  
ところかと思えます。

そのような中、「人工知能」(AI) や、「モノの  
インターネット」(IOT) などの先端技術と、それ  
と連動した業務用ロボットのめざましい進歩など、  
近年の技術革新の波は、私どもの業界にも押し寄  
せております。

加えて、一昨年の6月には厚生労働省から「ビ  
ルメンテナンス発注事務のガイドライン」が発出  
され、公共建築物のメンテナンス業務が、従来の  
価格編重の方向から、サービスの品質を重視する  
方向に舵が切られたところでございます。

技術革新が進み、サービスの品質が今まで以上  
に厳しく問われようとしている中で、1つの重要  
な課題が浮かび上がっているように思えます。

それは、社員の「技能」の問題です。

今さら申し上げるまでもなく、メンテナンス業  
務を、細部に至るまでミスなく確実に実行してい  
くためには、優秀な技術とともに、実際にそれを  
成し遂げていく実技的な能力、即ち、優れた「技能」  
が不可欠となります。

要するに、いかに技術力があっても、「技能」が  
良好に発揮されないと、高い品質のサービスは、  
提供できないということです。

これは漠然とした認識ではありますが、人の視  
覚や聴覚などの五感と、第六感とも言われる直感



開会のことば  
**来栖** 副会長



中締め  
**塚越** 総務委員長



司会  
**宮内** 副会長

力を駆使した「技能」が様々な産業分野で衰退しているように思えてなりません。「技能」は、英語のスキルに近い概念とされておりますが、人間の行動に関する能力であることから、人から人へ、直接、訓練を通じて伝承されるものと言われております。

一方、マンツーマンの厳しい指導は、パワハラと誤解されやすい風潮があります。

さらに、人手不足の問題もあることから、どの会員企業におかれましても、「技能」の伝承が容易ではないことと、ご推察いたします。

しかし、社員の「技能」を守り育てなければ、会社の発展が望めないことが現実となっております。

そこで、新年の目標を、「**技術とともに技能の向上を促進し、サービスの品質を確実なものにしていこう**」といたしますので、社内教育でのご配慮をお願いいたします。

今年も、予期しない様々な問題に直面することになると思いますが、困難に負けることなく、常に挑戦し、サービスの向上をめざすことで、会員企業が更なる飛躍を遂げますことを、大いに期待するところでございます。

結びに、本日ご出席の皆様方のご多幸と、会員企業の益々のご発展をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



茨城県知事  
大井川 和彦

本日は、一般社団法人茨城県ビルメンテナンス協会の賀詞交歓会が、大変盛大に開催されましたことを心からお慶び申し上げます。

大山会長をはじめ、会員の皆様方には、日頃から、建築物・設備の適正な管理や保安警備など、利用者が安全で快適に過ごせる空間づくりにご尽力いただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

また、県シルバー人材センター連合会と連携した高齢者のための清掃技能講習や、県の教育委員会と連携した小学生を対象とした「清掃活動トレーニング事業」などの社会貢献活動にも積極的に取り組んでいただき、改めて感謝申し上げます次第です。

さて、新年を迎え、景気につきましては明るい見通しが示されておりますが、人口減少や少子高齢化が急速に進み、変化が激しく、混沌とした時代を迎える中、景気が上向き基調にあるこの時期にこそ、これからの茨城を切り拓いていくための種をしっかりと蒔いていかなければならないとの想いを強くしております。

皆様方を取り巻く環境も、近年、地球温暖化防止対策をはじめとした環境問題への対応や、節電



などの省エネルギー対策、老朽化した施設の長寿命化に向けた計画的な修繕・改修、警備防災設備の自動化・システム化への対応など、より専門的な、新しい知識や技術の習得を求められていることと存じます。

また、社会のあらゆる分野で人手不足が深刻になる中、先端の技術を積極的に取り入れながら、将来に向けた人材の確保・育成を図っていくことが重要になるものと感じております。

こうした中、協会の皆様が、衛生的で快適な生活環境の提供に向けて、知識・技術向上のため、ビルメンテナンスロボット実演会などの各種研修会などを通じて、業界の更なる発展に取り組まれておりますことを、大変心強く感じております。

県におきましては、昨年末、「新しい茨城づくり」の方向性を取りまとめ、現在、来年度予算の編成や組織の見直しなどを行っているところであり、新年度から、大きな一歩を踏み出していくための準備が最終段階を迎えております。

将来を見据え、企業の本社機能や成長分野の企業の誘致、本県を牽引する様な企業の発掘・育成などにも新しい発想で挑戦し、皆様方の活躍の場を増やしていければと考えておりますので、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

茨城県ビルメンテナンス協会の益々のご発展と、本年が皆様方にとりまして、実り多き素晴らしい1年となりますことを心からお祈り申し上げ、新年のあいさついたします。



日本工業経済新聞 2018年(平成30年)1月20日(土)



茨城新聞 2018年(平成30年)1月24日(水)





# 「茨協ニュース」 創刊100号を 迎えるにあたって

(一社) 茨城県ビルメンテナンス協会  
会長 大山 進

会員の皆様方のおかげで広報誌「茨協ニュース」が創刊以来 100 号目を迎えました。

「茨協ニュース」の創刊を遡ること 5 年前、昭和 50 年 1 月に (社) 茨城ビルメンテナンス協会が旗揚げされました。20 年近く続いた高度経済成長が終焉を迎えた、第一次オイルショックから第二次オイルショックへと続く正に「狂乱物価」といわれた時代でした。物価は 20% 上昇、列島改造ブームによる地価急騰でインフレーションはさらに加速し経済成長は一気にマイナス成長となりました。

その後、経済は持ち直し安定成長期がしばらく続きますが、バブル経済の崩壊によって失われた 20 年と呼ばれる低成長期に突入する訳です。

そして現在、いざなぎ景気 (1965 年 11 月～1970 年 7 月高度経済成長時代) を超えて戦後 2 番目の長さ (2012 年 12 月～) といわれる景気拡大局面を迎えています。

そんな幾多の時代背景を経て刊行されてきた当協会の広報誌が、100 号を迎えました。

有為転変の世相にあっても、変わらず発行し続けてこられたのは、偏に会員の皆様方のご協力の賜物と感謝申し上げます。

さて、昨今ビルメンテナンス業界を取り巻く環境は著しく変化をしており、コスト削減圧力の継続競争は今後も激化していくであろうと思われます。

さらに大きな課題となっているのが人材の不足であります。労働集約型の業界において、人材不足は業容の縮小や人件費の高騰による利益の圧迫を招き、経営危機をもたらします。人材確保が難しい中小企業には、厳しい環境となっているのです。

茨城県のH29年12月有効求人倍率は1.56倍で、前年対比0.26ポイント上昇しています。ビルメンテナンス業界は不景気の時に就職・転職希望者が増えて、好景気の時には就職・転職希望者が減るといわれています。何とも皮肉な話ですが、若年層の人口減少に歯止めがかからない今、外国人労働者受け入れを視野に入れ、外国人技能実習制度への対応を急がなければならないだろうと思います。

ビルメンテナンス業界の市場規模は3.8兆円(H27年)で、ここ数年右肩上がりが増加してきました。東京オリンピックまでは関連需要に期待できるというが、以降大幅な市場の縮小があった場合、生き延びるには、さらに高付加価値な総合サービスの提供が求められます。

そのためICT活用による稼働の効率化や自動清掃できるロボットシステムの実用化など、ビルメンテナンス事業の効率化とビジネスモデルの見直しが急がれます。

地域と共存し地域発展のために、今後、当協会が目指すものは、公共性としての立場であります。

H23年3月11日に発生した東日本大震災は、死者23名、震災関連死41名、行方不明者1名、負傷者712名の人的被害に加え、住宅被害は21万棟に達したほか、道路、港湾、上下水道、学校など、多くの施設が損壊しました。その他農林水産物等を合わせた茨城県における\*被害総額は1兆9657億といわれています。

\*当協会の多くの会員も、社屋の損壊や、取引先からの業務契約の解消又は縮小など、大きな被害を被り、当協会は、全国協会をはじめ、全国のビルメンテナンス業の仲間から、総額1,223万円もの災害援助金の贈呈を受けた。

その後もH24年5月に起きた竜巻による被害、H27年9月の関東・東北豪雨など、自然災害は相次いで発生しています。

県外を見ても、H28年4月に発生した熊本地震、昨年の北九州豪雨など、自然災害による被害は後を絶ちません。

そこで、早急に取り組みが必要になってくるのが、BCP(事業継続計画)の確立であります。

BCPとは、企業が自然災害、大火災、テロ攻撃など緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限に留めつつ、中核となる事業の継続或いは早期復旧を可能にするために、平時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のことです。

そしてそれは、地域との連携性が必要となってきます。つまり、個々の企業・事業所による取り組みでは十分ではなく、地域等の広がりの中で、災害時への対応を準備しておくことがより必要となってくる訳です。

当協会は、会員の皆様方とともに、地域への貢献を明記したBCPの作成を急ぎ、地元自治体との地域防災協定の締結を目指し取り組んでまいりたいと考えております。

「茨協ニュース」は、今後とも会員の皆様方への情報発信はもとより、地域社会への貢献と業界発展のために、皆様方の貴重なご意見をお聞きしながら、より充実した広報誌を目指してまいります。

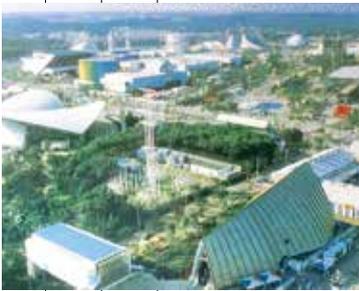
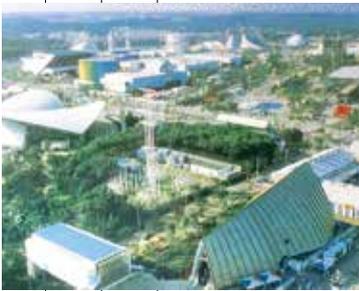
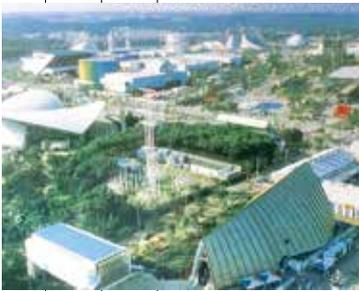
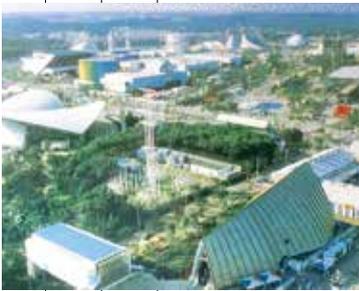
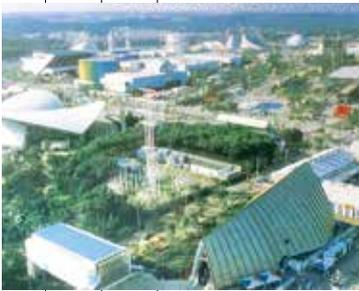
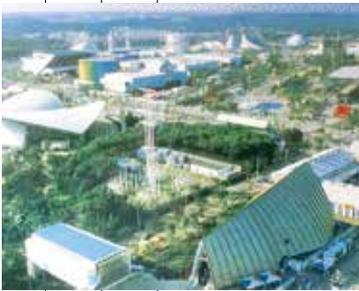
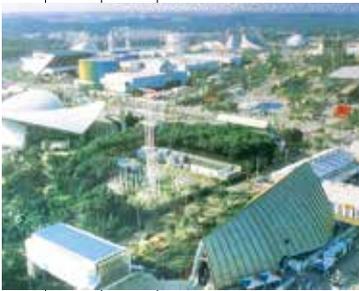
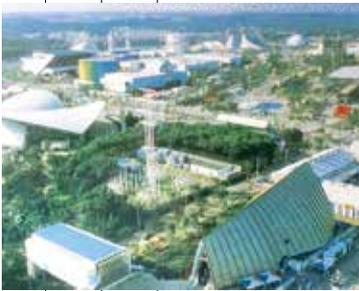
会員各社の益々の発展をご祈念申し上げまして、創刊100号にあたってのご挨拶といたします。



2018年(平成30年)	3月1日	茨協ニュースが創刊から100号を迎える	
2017年(平成29年)	8月30日	大山会長が公益社団法人全国ビルメンテナンス協会 関東甲信越地区本部長に就任	
2016年(平成28年)	11月7日	ビルメンテナンスロボット実演会の開催【参加者59名】	
2015年(平成27年)	4月1日	高齢者活躍人材育成事業「清掃技能講習」の開始	
2014年(平成26年)	4月1日	会員相互のコミュニケーション促進事業の開始	
2013年(平成25年)	10月10日・11日	関東甲信越地区例会(茨城例会)の開催【参加者145名】	
	4月1日	社団法人から一般社団法人へ移行登記 小学生清掃活動トレーニング事業の開始(9校/年)	
2012年(平成24年)	2月1日	協会事務所を笠原町から現在地の千波町へ移転	
2011年(平成23年)	12月13日	清掃用具贈呈式(潮来市役所)出席：二戸会長、大山会長など【237校へ贈呈】	
	4月1日	全国協会との連携事業「被災地の学校へ清掃用具を」キャンペーン事業開始	
	3月11日	東日本大震災の発生	
2005年(平成17年)	11月15日	協会設立30周年記念式典【参加者210名】	
	7月1日	協会事務所を見和から笠原町へ移転	
	4月28日	第31回通常総会 第4代会長 大山進氏(テスコ(株))【会員数68社】	
2004年(平成16年)	9月14日15日	関東甲信越地区例会(茨城例会)の開催【参加者168名】	
2002年(平成14年)	7月7日	インターハイに伴う清掃大作戦へ参加【参加者118名】	
2000年(平成12年)	10月14日	千波湖クリーン作戦の実施【参加者180名】	
1999年(平成11年)	10月16日	霞ヶ浦クリーン作戦の実施【参加者140名】	
	10月31日	千波湖クリーン作戦の実施【参加者138名】	
	10月26日	シニアワークプログラム事業開始(平成27年終了)	

2017年(平成29年)	大井川 和彦 知事が誕生する
2016年(平成28年)	G7茨城・つくば科学技術大臣会合開催される
2015年(平成27年)	関東・東北豪雨
2013年(平成25年)	筑波研究学園都市50周年を迎える
2012年(平成24年)	竜巻被害(つくば市北条地区)
2011年(平成23年)	東日本大震災、北関東自動車道が全線開通する
2010年(平成22年)	茨城空港が開港する
2009年(平成21年)	第47回技能五輪全国大会・第31回全国障害者技能競技大会(技能五輪・アビリンピック)いばらき大会(2009)開催される
2008年(平成20年)	ひたちなか海浜鉄道が開業する
2005年(平成17年)	首都圏新都市鉄道(つくばエクスプレス)が開通する 町村合併で32市12町村となる
2002年(平成14年)	FIFAワールドカップ日韓大会の試合が鹿嶋市(カシマスタジアム)で開催される
2001年(平成13年)	アクアワールド大洗水族館がオープンする
1999年(平成11年)	茨城県庁舎が水戸市笠原町へ移転する

協会のあゆみ

西暦(年号)		月日	主な行事等
1975年(昭和50年)	1月29日	(社)茨城ビルメンテナンス協会創立総会(第1回) 於：常陽銀行泉町支店内会議室 初代会長 尾見克之氏(関東ビルサービス(株)) 〔発起人〕9社・関東ビルサービス(株)・裕生興業(株) 高橋興業(株)・旭ビルサービス(株)・塚越産業 東京美装興業(株)・水戸営業所いわきビル設備管理センター(株) 東洋ビル管理(株)・水交ビルメンテナンス(株)	
	9月29日	(社)茨城ビルメンテナンス協会 県認可【会員数14社】	
1980年(昭和55年)	8月13日	茨協ニュース創刊号発行	
	9月18日	つくば科学博開幕(清掃業務受託)	
1985年(昭和60年)	3月17日	つくば科学博閉幕	
	9月18日	第14回通常総会	
1988年(昭和63年)	4月22日	第2代会長 高田武信氏(旭ビルサービス(株)) 第1回優良従業員表彰式【会員数53社】	
	3月27日	第10回全国グリーンフテ'93いばらき開幕(清掃業務受託)	
1993年(平成5年)	5月30日	第10回全国グリーンフテ'93いばらき閉幕	
	4月26日	第20回通常総会 第3代会長 塚越信男氏(株)塚越産業【会員数66社】	
1994年(平成6年)	4月26日	協会設立20周年記念式典 関東甲信越地区例会(茨城例会)【参加者199名】	
	9月26日	千波湖クリーン作戦の実施【参加者122名】	
1996年(平成8年)	10月5日	霞ヶ浦クリーン作戦の実施【参加者160名】	
	11月1日	第24回通常総会 (社)茨城ビルメンテナンス協会に改称【会員数74社】	
1997年(平成9年)	4月24日	茨城県ビルメンテナンス政治連盟発足	
	9月22日	祝 協会設立20周年記念式典 1975年(昭和50年) 100社・関東ビルメンテナンス協会	

茨城県のあゆみ

西暦(年号)		主な出来事
1974年(昭和49年)	国民体育大会茨城大会が開催される	
1985年(昭和60年)	国際科学博覧会(科学万博'85)が開催される 鹿島臨海鉄道 大洗鹿島線が開通する	
1988年(昭和63年)	常磐自動車道県内全区間開通する	
1989年(平成元年)	水戸市が市制100周年を迎える	
1993年(平成5年)	橋本昌知事が誕生する	

# 「茨協ニュース」の 創刊100号に寄せて

広報委員会 委員長 田口 順章

「茨協ニュース」が、この度、記念すべき100号を迎えました。

第1号の発行は昭和55年8月で、協会発足から5年6ヵ月後のことでした。

当時は協会の運営で手一杯であったものの、協会と会員を結ぶツールとして、広報誌の発行が不可欠との強い思いから、「茨協ニュース」の発行に踏み切ったそうです。

今回、当時の「茨協ニュース」を拝見しましたところ、協会の活動への熱意や、広報誌への大きな期待感のようなものを感じ取ることができました。

今日、我が国では、少子・高齢化や高度情報化、国際化の進展など、社会経済情勢の変化が目まぐるしく、企業活動のスタイルや価値観も、急速に多様化が進んでおります。

さらに、現代の「情報洪水」の中では、分かり易く魅力ある情報がタイミングよく提供されないと、関心を持たれず、ただ大量に流れ去ってしまうということになりかねません。

このような中、業界団体の一つである当協会の広報

誌は、今後どうあるべきかを、改めて問い直してみることになりました。

まず広報誌の役割ですが、大きく2つあると思います。ひとつは、純粋な協会の情報発信ツール。つまり、協会の事業活動や業界の動向などを会員に伝える働きです。もうひとつは、協会の方針や考え方といったものを会員に伝える新聞の社説のような働きです。

また、協会の行事や取り組み、サービス等に関する情報を伝える（伝達）だけでなく、受け手である会員が「どう受け止めるか」「どう動いてくれるか」という視点からも、編集を行うべきではないかと考えます。

今回の創刊100号を節目に、「茨協ニュース」の役割や編集の視点を見つめ直すことで、「茨協ニュース」をより良いものにしていきたいと、決意を新たにするところです。

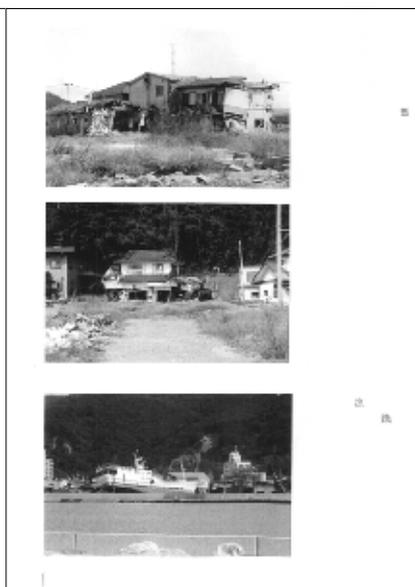
まだまだ進化途上ではありますが、会員の皆様方に喜んでいただき、会員のためになる「茨協ニュース」となりますよう、編集委員が一丸となりまして、日々努力してまいりますので、今後とも、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



茨協ニュース創刊号（昭和55年8月13日）



東日本大震災臨時増刊号



# 東日本 大震災から 7年が 経過して

## はじめに

今年の3月で、あの未曾有の大災害をもたらした東日本大震災から7年が経過しようとしておりますが、「茨協ニュース」が創刊から100号を迎えることとなりました。

そこで、今回、協会の大震災後7年の歩みと、全国協会をはじめ全国のビルメンテナンス業の仲間からいただいた多大なご支援の内容を「茨協ニュース」に掲載し、後々まで広く伝えていくこととしました。

なお、この7年は、復興関連の様々な事業や、事務所の移転、関東甲信越地区例会（茨城例会）の開催、さらには一般社団法人への移行など、大変なことが続きましたが、大山会長をはじめ各役員の皆様方のご尽力と、会員の皆様方のご協力により克服することができました。

## 02

### 当協会の取り組み（復興対策関連）

#### 1. 大震災発生から6月までの経緯

期 日	事 項
平成23年3月11日	東日本大震災が発生し、本県は東日本地域が未曾有の被害を受けた。当協会の会員も、社屋の損壊等による業務の支障に加え、取引先の多くの建物が被害を受け、大混乱に陥った。当協会の事務所も、壁の亀裂、書棚の倒壊等、大きな被害を受け、事務所機能が麻痺してしまった。
4月 4日	当協会から、各会員へ被災状況の報告を依頼した。
4月11日	当協会から、公益社団法人全国ビルメンテナンス協会（以下「全国協会」という。）へ、被害の状況を報告した。
4月16日	大山会長から、第179回関東甲信越地区本部会議において、改めて当協会の多くの会員が、困難な状況の下で業務を遂行せざるを得ない窮状を報告した。
4月25日	全国協会から、当協会に対し、総額12,230,000円の災害援助金の交付が決定した旨、通知があった。
同	大山会長が、自民党県連の「環境商工部会」に出席し、会員の被害状況等について報告を行った。
4月27日	全国協会から援助金が当協会に入金されたので、平成23年度 特別会計（地区協会組織強化事業助成金）に計上した。
5月16日	当協会から、各会員に通知し、援助金の交付を受けたこと及びその用途については、新たに委員会を設置し、検討のうえ決定する方針を示した。
6月10日	大山会長から、通常総会の中で、「茨城県ビルメンテナンス業復興対策検討委員会」を設置し、援助金の用途については、透明性と公平性をもって決定することが伝えられた。

## 2. 茨城県ビルメンテナンス業 復興対策検討委員会の設置

(以下「検討委員会」という。)

- 期 日：平成23年7月1日  
 正副委員長：委員長（会長 大山 進）、  
 副委員長（副会長 沢田 昭人、同 来栖 久）  
 委 員：常任理事から、細貝 美典、曾根 彰、齋藤 英寿、  
 宮内 隆夫。会員から、西野 勇、橋本 雄太、  
 宮城 利久、宇治野 帆二、大野 操、塚越 信男、  
 船橋 二三夫、城 真利子、坂本 忠和。  
 目 的：災害援助金による効果的な復興対策を検討  
 すること。  
 開 催：3回



## 3. 復興対策の決定

平成23年8月31日、検討委員会で決定した援助金による復興対策を、各会員あてに通知した。

復興対策の概要は、県協会の会費の一部減免、協会事務所の移転、及び復興事業（講習会、放射線測定機器の配備等）である。

## 4. 復興対策の実施

(～平成24年9月26日まで)

### ① 県協会費の一部減免

多くの会員は、震災によって取引先のメンテナンス業務の休止、或いは縮小などに追い込まれ、厳しい経営環境にあるため、平成24年8月31付けの通知で、震災時に会員資格を有した65社に対し、平成23年10月から翌年9月までの1年間、当協会の会費の一部（10,000円/月）を減免することとした。

### ② 協会の事務所移転

当協会の事務所が、深刻な壁の破損や冷暖房機器の不調などで、拠点としての機能に支障が生じたこと



看板の除幕式

から、県庁近くの県総合福祉会館の中に移転することを決定した。平成24年2月1日に看板の除幕式を行い、新しい事務所で活動を開始することとなった。

### ◇ 看板の除幕式

日時：平成24年2月1日（月）午前10時

会場：協会事務所前

出席：大山会長、宮内副会長、鷹巣理事（総務委員長）、事務局（砂押、田山）。立会者として、皆川館長、県シルバー人材センター連合会の伊藤常務理事など

### ③ 放射線測定機器の購入と貸出し

福島原発の事故により、「放射性物質汚染対処特別措置法」によって、県内20市町村で毎時0.23 $\mu$ SV以上の区域が、「汚染状況重点調査地域」として指定の対象となったことから、屋外作業を行う従事者の安全を確保するため、放射線測定機器2台を購入し、平成23年11月1日から、希望する会員に無料の貸出しを開始した。

### ④ 放射能と健康影響に関する講習会の開催

平成23年10月19日、当協会の労働安全衛生大会の場を活用し、独立行政法人日本原子力研究開発機構の全面的な支援の下、放射線の基礎知識、福島原発からの影響などについて専門家の講習を受けた（参加39社、受講74名）。



平成23年10月19日

### ⑤放射能除染講習会の開催

平成24年1月1日から新たに施行された「除染電離則」に基づき、(財)建築物管理訓練センターの支援を受け、放射能汚染土壌等の除染の業務に従事する社員を対象として、除染特別教育を実施した。

◇1回目：平成24年5月28日(月)午前10時～午後4時30分  
学科 49名受講

◇2回目：平成24年9月26日(水)午後1時30分～午後5時  
学科及び実技 41名受講

### ⑥茨協ニュース「大震災特集号」の発行、会員への周知

発行日：平成24年3月11日発行

目的：大震災の凄まじい被害の状況や、当協会が講じた復興対策及び全国協会の支援活動の全容を広く周知するとともに、この大震災の教訓を、今後の対策にどう生かしていくべきか、問題の提起をすること。

部数：210

配布先：会員、賛助会員、行政(県、一部の市)、友好団体など



平成24年9月26日 放射能除染講習会

## 5. 全国協会との連携事業

### ①全国協会による「被災学校に清掃用具を！」

#### キャンペーン事業

平成23年4月から、全国協会では、被災した東北三県に対し、震災復興支援として本キャンペーン事業を展開してきたが、その第二弾として、本県に対しても同年10月から12月にかけて本事業を行った。



贈呈式

#### ア事業の概要

- 全国協会の役割： 約3,000社の会員企業の支援を得て清掃用具類を集め、それを整理して、要請のあった学校へ個別に送付すること。
- 提供されたもの： ホーキ、チリトリ、モップ、絞り器、デッキブラシ、バケツ、ぞうきん、洗剤、タワシ、ゴム手袋、小学校清掃指導マニュアルなど
- 当協会の役割： 茨城県教育庁保健体育課との連絡調整を行うこと。
- 被支援校の数： 237校(幼稚園、小学校、中学校、高等学校)
- 事業の反応： 全国協会及び当協会へ、多くの学校の校長先生や児童、生徒から、感謝の手紙やはがきが届いた。

#### イ贈呈式

平成23年12月13日(火)午後、特に液状化などで被害の大きかった潮来市に対し、全国協会から2トントラック1台に満載した清掃用具類(高压洗浄機等の機器を含む)が贈呈された。

#### ●出席者

全国協会： 一戸会長、本多キャンペーン委員長(副会長)、矢口同副委員長など

当協会： 大山会長、沢田副会長、各理事など

潮来市： 裕田市長、鈴木副市長、仲澤教育長、矢幡教育次長など

県教育庁： 今川総括補佐、鈴木学校保健担当係長、上野係長

感謝状： 一戸会長に対し、裕田市長及び今川総括から、それぞれ感謝状が贈呈された。

新聞報道： この支援事業は、茨城新聞、朝日新聞によって報道された。

## 6. 被災地の視察

### ①県内

日 時： 平成23年9月8日(木)  
 行き先： 県内で最も被害が大きかった北茨城市、大洗町  
 目 的： ビルメンテナンス協会として、今後、本県の震災復興にどのようなかたちで寄与できるのかを探ること。  
 参加者： 当協会の役員(総勢8名)  
 結 果： 1階の浴室が損壊した海沿いの観光ホテル、全壊したし尿処理施設、機能を完全に失った漁港・市場、多数の車両が流失したカーフェリー港などを実際に見て回り、被害の甚大さを肌で感じた。また、福島原発による放射能への不安は、想像を超えたものであった。

### ②県外

日 時： 平成23年9月28日(水)  
 行き先： 宮城県石巻市～仙台市  
 目 的： 想定を超えた自然災害に遭遇した場合、大切な社員の生命を守る危機管理のあり方、事業継続計画(BCP)の必要性など、今後、大震災の教訓をどう生かしていくべきかを探ること。  
 参加者： 検討委員会の委員及び当協会の役員(総勢14名)  
 結 果： 石巻市内の「日和山」から、沿岸部の凄まじい被害の状況を一望し、全員が言葉を失うほどの衝撃を受けた。このような大震災に見舞われた時、最初起こすべき行動は何か、誰もが真剣に考えなければならぬと強く感じた。



北茨城市

## 7. 全国協会による被害状況の調査

日 時： 平成24年9月7日(金) 午後1時～6時  
 対 象： 県内の会員企業2社  
 調 査 者： 全国協会 鴻調査研究委員長(副会長)、大竹建築物安全管理委員長(理事)、興膳専務、関内課長  
 当 協 会： 立会い(大山会長、砂押専務)  
 調査結果： 2社に対して、聞き取り調査(防災対策、震災発生時の状況・被害、発生後の対応、現在の状況、課題等)を実施し、今後の対策に生かすための貴重な情報を収集することができた。

## 8. 公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会 関東甲信越地区本部への報告

東日本大震災から5年が経過した平成28年2月、多大なるご支援をいただいた関東甲信越地区本部の方々へ復興状況等の報告を行った。

日 時： 平成28年2月18日(木) 午後3時  
 場 所： 協会会議室  
 出 席 者： 茨城県協会 ⇒ 大山会長、宮内副会長、矢口理事、鷹巣理事(総務委員長)、事務局(砂押、田山)  
 地区本部 ⇒ 村田本部長(群馬)、鴻会長(神奈川)、大竹会長(千葉)、齊藤会長(埼玉)、羽石地区本部事務局長

# 03

## 災害対策に係る 今後の課題

### 1. 危機管理体制の構築 (社員の安全確保等)

各会員が、今回の大震災の情報(生存者の証言等)を広く収集し、想定を超えた災害の発生を前提として、社員の生命と安全を守り、被害を最小限に抑えるための措置を的確に講じることができる危機管理体制を再構築すること。

その場合、留意すべき事項は、

- ①単なる「マニュアル化」に止めるのではなく、定期的な訓練、外部講師による勉強会など、常に「マニユア

ル」の適否を検証すること。

- ②被害の状況を、社内と取引先の双方について、迅速かつ正確に把握するための連絡手段と、公的な災害情報の収集方法については、二重三重に備えること。
- ③講じるべき措置の優先順位を明確にし、最悪な状況下でも、安全確保など、最低限の措置が講じられるようにすること。

## 2. 事業継続計画策定への取組み

各会員が、危機管理体制をさらに発展させるかたちで、事業継続計画（BCP）の策定と公開に取り組むことにより、企業としての信用と、業界全体の社会的な信用を得られるようにすること。

## 3. 大規模災害時の応急対応に関する県との協定の締結（最終目標）

近年の異常とも言える風水害等の大型化に対する備えと、社会貢献の一環として、当協会と県との協定締結に向け、上記1及び2の取組みと会員の合意形成の促進を図ること。



# 04

## 第42回 関東甲信越地区例会（茨城例会）の開催

- ①期 日 平成25年10月10日（木）～11日（金）
- ②会 場 「ホテルマロウド 筑波」土浦市城北町2-24
- ③参加者 145名（9県：神奈川、新潟、長野、埼玉、山梨、栃木、千葉、群馬、茨城）
- ④日 程 （第1日目）  
会 議：全国・各県協会報告等  
講演会：「なでしこジャパンに学ぶ世界一のチームワーク」  
懇親会：アトラクション（井坂流津軽三味線）  
（第2日目）  
観 光：予科練平和記念館、カガミクリスタル、シャトーカミヤ（昼食）、霞ヶ浦観光（44名参加）  
ゴルフ：富士OGMゴルフクラブ出島コース（40名参加）
- ⑤総 括 充実した会議となり、懇親会も盛り上がりを見せ、観光とゴルフでは、本県の素晴らしさを広く紹介することができ、コミュニケーションも十分に図れた。後日、多くの他県参加者から、感謝と賛辞の言葉をいただくことができた。

## 05

## 新しい法人制度への対応

平成24年	9月11日	一般社団法人への移行認可の申請（茨城県知事あて）
平成25年	1月28日	茨城県公益認定等審議会から、一般社団法人の認可の基準に適合するとの答申書が、茨城県知事へ交付される
同年	3月19日	一般社団法人への移行認可（茨城県知事）
同年	4月1日	社団法人の解散及び一般社団法人への移行の登記（水戸地方法務局）
平成26年	5月19日	公益目的支出計画実施報告書の提出（茨城県知事あて） 〈実施期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日〉
平成26年	12月19日	公益目的支出計画の実施完了の確認（茨城県知事）

## 06

## 小学生清掃活動トレーニング事業の実施（～平成29年度）

平成25年度、全国協会の社会貢献事業による助成を受け、県教育庁義務教育課と連携を図り、県内の公立小学校を対象とした小学生清掃活動トレーニング事業を開始した。本トレーニング事業は、平成25年度から平成29年度までの5ヵ年計画で実施することとしたが、多くの会員のご協力により、多方面から高い評価を受けることができた。

- ①事業名 小学生清掃活動トレーニング事業  
 ②趣 旨 小学生が適切な清掃の技能と、衛生的な環境の大切さを理解するための一助として、学校の清掃の時間を活用し、協会が児童に清掃の実地指導を行う。

## ③結 果

年度	対象校	参加児童数(延べ人数)	指導者数(延べ人数)	参加会員(会社)数	実地指導の対象
25	9	821	74	24	トイレ・教室・廊下・階段など
26	9	808	71	22	同上
27	9	586	69	24	同上
28	8	379	57	23	同上
29	9	354	57	24	同上
計	44	2,948	328	119	

留意事項：本トレーニング事業は、全国協会が平成23年度に実施した前述の「被災学校に清掃用具を！」キャンペーン事業に関連するものである。



# 災害事例

平成29年1月～12月の労働災害事例につきまして、会員各社から報告されたものを参考として掲載いたします。

## 1.業務災害

年齢	性別	経験年数	発生日時 事故の型別	障害 模様	程 度	発生状況及び原因
1	41	男 2年 1ヶ月	2月25日(土)11:00 工場内/その他	角膜 腐食	休業なし	樹脂噴霧器修理中、噴霧器内に圧力が掛っているとは思わずにジョイントをしめた際に、薬剤が噴出し目に入った。
2	65	女 6年 11ヶ月	6月28日(水)7:50 病院内/転倒	打撲	休業なし	総合病院のオペ室内をモップを掛け清掃していた際に、足を取られて転倒した。転倒する際に、オペ室壁に右側頭部を強打したものの。
3	57	男 10ヶ月	8月25日(金)14:00 工場内/転落	強打	休業なし	残土の入った鉄製容器にチェーンを掛けてクレーンでつり上げ、鉄製容器に入った残土をダンプ荷台に移す際に、荷台で作業を行っていた玉掛け担当者が鉄製容器に足を取られて、荷台から押し出され背中から落下した。
4	21	女 1ヶ月	8月23日(水)14:00 プール/挟まれ	裂傷	休業なし	プール、排水口グレーチングの固定の確認作業中、グレーテンから指を引き抜く際に、右手中指が引っかかり裂傷を負った。
5	59	男 1年 8ヶ月	10月20日(金)9:30 病院/激突され	骨折	休業 31日以上	駐車位置に車を止めようとしたお客様に対して、運転席右側で助言をした際に、運転手がブレーキとアクセルを踏み間違えて急発進したため、駐車場案内担当者の右足に接触した。
6	53	男 1年 8ヶ月	11月18日(土)15:40 病院/激突	骨折	休業4日 未済	清掃担当者が、病院内で回収した医療ごみをごみ収集台車(ボックス)からごみ収集所内に移動する際に、誤って胸部をボックスの角にぶつけた。

## 2.通勤災害

1	66	女 2年	7月31日(月)7:30 駐輪場前/転倒	骨折	休業 31日以上	仕事場に出勤して、駐輪場の手前で自転車を止めて降りようとした際に、自転車と共に左側に転倒し、腰を打ってしまった。
---	----	---------	-------------------------	----	-------------	--

「労働災害発生報告システム」については、当協会ホームページに詳細がありますので、ご利用ください。

※労働災害についての正確な情報を把握共有するためにも、毎月の「労働災害発生報告書」の提出について、引き続き、会員各位のご協力をよろしくお願いいたします。

## 平成30年度主要事業・行事の開催予定

担当委員会	事業名等	開催日時	会 場
	予備監査	5月15日(火) 10:30～	協会 会議室
	監 査	5月22日(火) 10:30～	同上
	第8回常任理事会	5月22日(火) 13:30～	同上
	第3回理事会	6月14日(木) 10:30～	ホテルレイクビュー水戸
	第44回通常総会	6月14日(木) 13:30～	同上
総 務	第29回優良従業員表彰式	6月14日(木) 13:30～	同上
	会員相互のコミュニケーション推進事業 ・ BMゴルフ大会 ・ 研修方式	6月、11月 10月	未定 つくば市
建 物 衛 生	清掃作業従事者研修指導者講習会 (新規・再講習)	7月19日(木) 9:30～	茨城県総合福祉会館
	高齢者活躍人材育成事業 (清掃技能講習)	未定	未定
設 備 保 全	技術者研修会	9月5日(水) 10:00～	茨城県総合福祉会館
労働安全衛生	労働安全衛生大会	10月10日(水) 13:30～	同上
広 報	茨協ニュースの発行	8月1日、12月1日 2019年3月1日	

## 理事会だより

### 第4回常任理事会

- 日時** 12月5日(火) 15:00～16:30  
**場所** 協会 会議室  
**出席者** 大山会長、来栖・宮内副会長、池田・田口・石田・塚越・川上各常任理事、事務局(砂押専務理事、田山)  
**議題** (1)賀詞交歓会の運営(案)について  
(2)平成29年度事業の進捗状況について  
ア 小学生清掃活動トレーニング事業  
イ 高齢者活躍人材育成事業(清掃技能講習)  
ウ 会員相互のコミュニケーション促進事業  
(3)建築保全業務に係る諸経費に関する調査の協力会員の選定について  
(4)アンケート調査の協力会員の推薦について  
(5)茨協ニュース(第100号記念)の発行について  
(6)住宅宿泊事業法について  
(7)その他

### 第5回常任理事会

- 日時** 1月15日(月) 13:30～15:00  
**場所** 協会 会議室  
**出席者** 大山会長、来栖・宮内副会長、池田・田口・石田・塚越・川上各常任理事、事務局(砂押専務理事、田山)  
**議題** (1)賀詞交歓会の運営等について  
(2)今後の主要行事の日程について  
(3)第44回通常総会について  
(4)その他

### 第6回常任理事会

- 日時** 2月15日(木) 15:00～17:15  
**場所** 協会 会議室  
**出席者** 大山会長、来栖・宮内副会長、田口・石田・塚越・川上各常任理事、事務局(砂押専務理事、田山)  
**議題** (1)平成30年度事業について  
(2)「茨協ニュース(第100号)」の特集記事について  
(3)平成30年度前半の主要行事の日程(再確認)について  
(4)その他

## 各委員会だより

### 建物衛生委員会

- ◇ 新年度事業計画策定会議  
**日時** 1月26日(金) 15:00～17:00  
**場所** 協会 会議室  
**出席者** 石田委員長、大曾根副委員長、谷田部・高橋・金親・塩谷・篠崎・鹿嶋各委員、事務局(砂押専務理事、田山)  
**議題** (1)清掃作業従事者研修指導者講習会の運営について  
(2)高齢者活躍人材育成事業(清掃技能講習)の運営について  
(3)ビルクリーニング技能検定受検準備講習会の対応策について  
(4)その他



### 広報委員会

- ◇ 茨協ニュース第100号記念に係る打合せ  
**日時** 12月13日(水) 15:00～16:30  
**場所** 協会 会議室  
**出席者** 田口委員長、湯原・古市副委員長、館・後藤・伊勢各委員、事務局(砂押専務理事、田山)  
**議題** (1)茨協ニュース(第100号記念)の内容・構成等について  
(2)その他

- ◇ 茨協ニュース第100号記念に係る打合せ  
**日時** 1月24日(水) 16:00～17:00  
**場所** 協会 会議室  
**出席者** 田口委員長、湯原・古市副委員長、館・後藤・鈴木各委員、事務局(砂押専務理事、田山)  
**議題** (1)茨協ニュース(第100号記念)の内容・構成等について  
(2)その他

## 広報委員会

### ◇ 第3回委員会及び編集会議

**日時** 2月7日(水) 15:00～17:00  
**場所** 協会 会議室  
**出席者** 田口委員長、湯原・古市副委員長、館・後藤・鈴木各委員、事務局(砂押専務理事、田山)  
**議題** (1)茨協ニュース(第100号記念)の内容・構成等について  
(2)茨協ニュース(第100号記念)の編集作業等について  
(3)その他

### ◇ 編集会議

**日時** 2月19日(月) 15:00～17:00  
**場所** 協会 会議室  
**出席者** 田口委員長、湯原・古市副委員長、館・鈴木・佐藤各委員、事務局(砂押専務理事、田山)  
**議題** (1)茨協ニュース(第100号記念)の編集・校正作業等について  
(2)その他

## 会員告知板

社名の変更(平成30年3月1日～)

新:株式会社 白青舎 東関東営業所

旧:中央管財株式会社 茨城・千葉営業所

※所在地・TEL・FAXは変更なし

## 編集後記

### 協会の役割とは?

協会のHPを見ると1966年(昭和41年)全国ビルメンテナンス協会が設立されています。昭和39年の東京オリンピック以降大都市を中心としたビルの建設ラッシュが続き、維持管理の専門業者のニーズが高まったのだらうと想像されます。高度経済成長の中、ビルメン業界も成長産業の一つだったのかもしれませんが。

私は、今年で58歳。52年前に協会が発足した時には、6歳のはなたれ小僧でした。昭和40年代の小学校では、学校の廊下をぬかの入った雑巾で四つん這いになり子供が並んで磨いていた記憶があります。古き良き時代ですね。。。

時代は平成になり、バブルが終焉を迎えた平成4年に弊社は清掃サービス業を開業しました。先輩の会社様からは、昔は良かった!という逸話を数多く聞かされ、そうは言っても厳しい単価の中、現状の課題をひとつずつクリアしながら会社を維持経営してきました。

そのころの想いとしては、弊社は、後発組だしビルメン協会に加盟している様な大手企業様には敵わない。どうやって仕事を増やしていこう?と試行錯誤してきました。

企業を回り、見積もりを出し仕事を開拓営業し、ス

タッフと共に業務をこなし、お客様の役に立てる様に努力し改善していく。このことの繰り返しをしてきました。

2年前に協会に加盟させていただき、諸先輩と色々とお話をさせて頂く中で思ったことは、小さな清掃サービス会社でも大手ビルメン企業でも、基本的には同じ請負業である以上日々努力するポイントは同じなんだと実感しています。

私の様な新参者の仲間作りのためにも、協会として会員の親睦を図る事業を益々期待していきたいです。

(株)クリーンジャックシステム 伊勢 一則



### 第100号の編集者

館 由紀夫 新生ビルテクノ(株)	後藤 満 (株)ライフ・クリーンサービス	古市 茂樹 茨城グローブシップ(株)
湯原 隆幸 タカラビルメン(株)	田口 順章 (株)とも系	鈴木 貴志 (株)クリーンジャックシステム

責 任 者 会長 大山 進  
編集責任者 広報委員長 田口 順章  
発 行 回 数 年3回  
印 刷 所 有限会社クリエイティブサンエイ

発行所

茨城県水戸市千波町1918

一般社団法人 茨城県ビルメンテナンス協会

TEL 029-305-5111

FAX 029-305-5112

E-mail [ibma1@ceres.ocn.ne.jp](mailto:ibma1@ceres.ocn.ne.jp)

<http://www.ibaraki-bma.or.jp/>

